

## 日本語の特徴

### 1) 日本語の音声

言語を学習する際、多くの場合その言語特有の発音を学ばなければならない。例えばアラビア語やドイツ語では喉の奥を使う発音を身につける必要がある。

では、日本語はどうであろうか。日本語は音素から見ると、実に単純な構造と言えるだろう。なぜなら、ひとつの音素が単純で、母音か、一つの子音と母音とから成り立っているからである。また、「ん」という拍以外では、全ての拍が母音で終わるという日本語の特徴がある。

日本語にはアラビア語のように喉の奥から来る発音はない。またほとんどの文字がその文字通りの発音を持っている。さらに日本語の拍は英語やトルコ語などの多くの言語に比べて少なく、非常に単純な構造である。このため学習者がどんな新しい単語に出くわしても、耳で聞いて書くことができる。つまり日本語では聞いた音と書く文字のずれがほとんどないのである。

### 2) 日本語の文字

日本語には2つの文字があるため読み・書きは確かに特殊で異なる。この2つの文字の1つ目は漢字という表意文字である。

漢字は、それぞれの文字に意味があり、古代エジプトの象形文字に似た構造になっている。この漢字を学

ぶことは面白いが、表意文字を用いない言語を母語とする日本語学習者にとっては厄介なものであろう。

しかし、ある程度の決まった文字を覚えると、もっと深く日本語を理解することができる助けとなる。たとえば、高速道路の標識にナイフとフォークの絵がある。これは、「レストランがある」ということを意味する。日本語の漢字もこれに似た構造で、未知の漢字でもその構造から漢字の意味を類推することができる。そして、この漢字を学べばより早く日本語を理解することができるであろう。

また、漢字は声に出さなくても、漢字それだけで理解できる特徴がある。つまり、中国人や韓国人などの漢字圏の国々の人と漢字だけで意思疎通することも可能である。

日本語の2つ目の文字の種類には、上記の漢字とは別に、ひらがなとカタカナという、ラテン語から派生したローマ字のような表音文字がある。つまり、漢字とは違い、その文字自体に意味を持たず、音だけを表わす文字である。

ひらがなは基本となる文字は46字ある。そしてこの文字は日本語特有の大和言葉を書くために使われ、また日本人や日本語学習者が一番初めに習う文字でもある。

一方カタカナは、字形は異なるが、ひらがなと同じ音で、基本となる文字も同じように46字がある。普通、カタカナは外来語や漢字圏以外の国名や人名に用いられる。その特徴のために、ひらがなに比べるとカタカナの使用範囲はかなり限られたものになる。

### 3) 日本語の文法

アラビア語には、単数形・双数形・複数形の違いや、男性形・女性形の区別があるが、日本語にはこの違いはない。男子学生も女子学生も、一人の学生、二人も三人も全て同じ学生になる。また主語と動詞の関係においても、名詞や人称代名詞、時制、またはその数など、主語に合わせて動詞が変化することもない。このように日本語の文法は比較的簡単な構造でできている。

#### むすびにかえて

日本語及び日本文化はオリジナリティーがあり、非常に豊かなものである。

日本語、あるいは卓越した文化・伝統、または日本の科学・技術・経済・産業に興味のある新入生の皆さんは、ぜひ、キングサウド大学日本語専攻科に入学して勉強してほしいと思う。

言語翻訳学部日本語コースでは、サウジ国内で日本語や日本文化を勉強するだけでなく、実際に日本に留学し、日本語と日本文化を勉強するチャンスも用意している。

ひらがな

a	i	u	e	o
あ	い	う	え	お
ka	ki	ku	ke	ko
か	き	く	け	こ
sa	shi	su	se	so
さ	し	す	せ	そ
ta	chi	tsu	te	to
た	ち	つ	て	と
na	ni	nu	ne	no
な	に	ぬ	ね	の
ha	hi	hu	he	ho
は	ひ	ふ	へ	ほ
ma	mi	mu	me	mo
ま	み	む	め	も
ya		yu		yo
や		ゆ		よ
ra	ri	ru	re	ro
ら	り	る	れ	ろ
wa		wo		n
わ		を		ん

カタカナ

a	i	u	e	o
ア	イ	ウ	エ	オ
ka	ki	ku	ke	ko
カ	キ	ク	ケ	コ
sa	shi	su	se	so
サ	シ	ス	セ	ソ
ta	chi	tsu	te	to
タ	チ	ツ	テ	ト
na	ni	nu	ne	no
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
ha	hi	hu	he	ho
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
ma	mi	mu	me	mo
マ	ミ	ム	メ	モ
ya		yu		yo
ヤ		ユ		ヨ
ra	ri	ru	re	ro
ラ	リ	ル	レ	ロ
wa		wo		n
ワ		ヲ		ン